公園はすべての米国人を結ぶ特別な場所

メアリー・A・ボーマーへのインタビュー

© AP Images/National Park Service

国立公園局長のメアリー・A・ボーマー。2006年就任、2万人の職員および14万人のボランティアの先頭に立って、約400カ所の国立公園や記念物などの管理に当たっている。

メアリー・A・ボーマーは、米国国立公園局の第17代局長。様々な公園施設で16年間勤務した後、2006年に現職に任命された。Eジャーナルとの書面によるインタビューで、米国の国立公園制度に深い愛着を感じる理由と、21世紀にふさわしい国立公園の実現に向けての局長としての抱負を語る。

質問：入植地から国家としての拡大という「米国の物語」全体の中で、国立公園局はどのような側面を象徴していると思いますか？

ボーマー：国立公園局は、あらゆる意味で米国の物語を全面的に象徴する組織です。国立公園局は、最初の永続的入植地となったバージニア州ジェームズタウンや米国独立に向けての苦しい闘い、国家としての拡大と戦争、アメリカ先住民や少数民族の苦難など、米国の歴史と文化的な経験を今に伝えている地域や場所を管理しています。つまり、優れた業績から内輪の恥まで、国家としての成長のあらゆる側面を浮き彫りにする地域や場所を管理しているのです。

米国全土および世界中の人々が、米国の精神を反映する場所を訪れます。そして、彼らは英雄的な行為や犠牲の物語ばかりでなく、現在の我々の一部になっている悲しい物語も聞きます。

私がいつも言っているのは「我々すべてを米国人として結び付けている特別な場所がある。それが国立公園だ」ということです。

質問：その米国の物語に、あなた自身の人生はどのような1章を付け加えていると思いますか？

ボーマー：私は「自らの選択による米国人」という言葉が好きで、自分自身をそう呼ぶことに誇りを持っています。私は1977年10月28日、ワシントン州スポケーンで米国憲法に対する忠誠を誓いました。私の人生にとっても家族にとっても、非常に誇らしい瞬間でした。

私の物語は米国の物語のひとつであり、移民の物語のひとつでもあります。私の家族は、イングランドのレスターで靴下などを製造する大きな工場を営んでいました。素晴らしい両親に4人の兄弟と1人の姉とともに育てられた私はたいへん幸せでした。イングランドの田園地帯の美しい村で暮らしたことで、私は物事を保存することが好きになりました。家族は歴史的なものを保存することに本当の愛情を持っていました。

私は子供のころにも米国でも暮らしたことがあります。グランドキャニオン、ペトリファイド・フォレスト、ゴールデンゲート、ラシュモア山など多くの国立公園を訪れました。こうした旅行を通じて、米国各地の文化を目にし、経験するという、学校では得られない教育を受けました。こうした子どものころの素晴らしい経験が、米国の景観、文化、国民に対する強い情熱を

オクラホマ州オクラホマシティーで1995年に起きた連邦政府ビル爆破事件の記念センターで、犠牲者を偲んでライトアップされた椅子。記念センターが開設された2000年、ボーマーは同施設の管理責任者だった。センターは国立公園局の関連施設だが、オクラホマシティー国立記念センター財団が所有・運営している。

私に植え付けたのです。ですから、国立公園局は世界最大の大学だと私は本当に思っています。

1990年に国立公園局に入りました。数多くの異なる公園や地域で勤務し、その間ずっと、多様で広範な公園制度全体に対する認識と理解を深めてきました。米国の建国の父たちが、自由の大義のために彼らの「生命、財産、および神聖なる名誉」をささげることを誓った、フィラデルフィアの独立記念館を含む米国北東地域の管理責任者を務めた後、2006年に国立公園局長に任命されました。

これは私の話ではありません。私が言いたいのは、我々の孫たちにとっても、米国の国立公園と米国の自然・文化資源の保存の重要性は変わらないということです。私のビジョンはすべての米国人を国立公園に結びつけ、公園資源の財政的な持続可能性と保護を図ることです。

私が何を達成するにせよ、それには国立公園局のために毎日一生懸命に働いている2万人を超える男女の職員の助けが必要です。彼らが我が国の子どもたちと触れ合い、自然や科学、歴史に対する好奇心を呼び起こすのです。私にできることは、彼らが自分の任務を達成し、国に対して自らの意見を述べるのに必要な手段を与えることです。

質問：国立公園局が現在直面する最大の課題は何だと思いますか。

ボーマー：21世紀初頭にあたって、国立公園局はいくつかの課題を抱えています。項目別に整理して言えば次のようになります。

- 米国国民の国立公園への支持を再活性化し、「米国が生んだ最高のアイデア」に対する誇りを再び高める。
- 人口の変化により生じるニーズに対応する、21世紀型の国立公園制度に向けて、そのための能力を強化する。これには、新世代の幹部職員の新規採用、定着、研修、および準備が含まれる。
- 国立公園に関心を持つ膨大な数の人々の考え方を聞き、今日の技術および我が国の人口動態の急激な変化を踏まえて、我々の手法の転換を図る。

国立公園局の管理者と職員は、常に、国立公園において質の高い経験を提供する努力をしています。21世紀の人々の好みや技術、人口動態の変化に遅れずに対応するため、我々は多言語の、触って確かめることのできる展示や、対象物へのア

Harpers Ferry NHP

ウェストバージニア州のハーパーズ・フェリー国定歴史公園で、パークレンジャーから祝福をうける新入りのジュニア・レンジャー。南北戦争で重要な役割を果たした19世紀の町の保存・保護という国立公園局の活動に参加する。

クセスを容易にするための新しい手法を開発しました。また、インターネットを使った情報や絵はがき、携帯電話による案内が利用できるツアーなど、現代の技術に歩調を合わせた取り組みもしています。

我々は、インフラを整備することにより、国立公園をもっと活気のある、魅力的で感動的な場所にしなければなりません。21世紀の新世代のリーダーを採用し、教育し、育成しなければなりません。

質問：国立公園は最も愛されている国の制度のひとつだとよく言われます。しかし、遺跡の管理方法や歴史的な物語の提示方法をめぐって、紛争が起こる場合があることも確かです。こうした状況にはどのように対処しますか。

ボーマー：もちろん、世論が大きく分かれる場合もあります。その時は、公園の近くに住む人々や、協力者、観光業者との関係の再構築が必要になります。意見を聞き、学び、一般の人々や観光関係のパートナーを公園問題に加える行動をとれば、大きな意見の相違があってもその解決は可能です。ほとんどの場合、我々はこうした地域社会のパートナーとの間に素晴らしい関係を築き、誤解や意見の相違を克服することに成功しています。結局のところ、我々はみな同じことを望んでいるのです。

国立公園局での18年間を通じて、私は人をまとめるのがうまいことで知られてきました。私は2000年、（168人が死亡した）1995年のマラー連邦政府ビル爆破事件の現場につくられたオクラホマシティー国立記念センターの管理責任者でした。記念センターの開設準備段階では、あれだけの大きな悲劇の後でしたから、ご想像の通り、地域社会には極めて生々しい感情が示す人もいました。私は、すべての人々の声が反映されるように、遺族、生存者、救助隊員や、連邦および地方政府と協力して問題に取り組みました。重要なのは、私が「ゴネ得狙い」と呼ぶ人たちを含めて、すべての方面の意見を聞くことです。実際、それが決定的に重要です。

質問：国立公園局に負託された権限の一部として、国立公園を将来の世代のために守ることがあります。若者が自然・歴史・文化遺産を保存することの重要性を理解する大人に成長するようにするための国立公園局の教育プログラムについて、少し説明していただけますか。

ボーマー：国立公園局の教育プログラムは、生活を豊かにするとともに学習を促進し、公園やその他の特別な場所に対する認識を高め、それによって米国の遺産を保全することを目的にしています。我々の「教室としての公園（Parks As Classrooms）」プログラムは、人々が科学的・歴史的・文化的なプロセスと研究についてより多くの知識を身につけられるように、多様な活動を通じて教育的な努力を拡大することを促すためにつくられました。そうすれば、人々はこの知識を、自らの個人的な意思決定や管理責任をめぐる倫理の形成に適用することが可能になるかもしれません。我々としては、展示物、映画、解説プログラムなどの活動に人々を実際に巻き込むことによって、生涯を通じての管理責任感覚を育てたいと考えています。

我々が、子どもと家族向けに「公園内」で実施している主要な教育活動に、「ジュニア・レンジャー・プログラム」があります。これは「探検し、学び、守る」ことを子どもたちに奨励するプログラムです。公園に入った子どもと家族は、彼らのために特別に作成された活動パンフレットを使って公園内を探索します。パンフレットは、その公園の物語を紹介するとともに、さもなければ見過ごしてしまいそうな公園の部分を示しています。公園を探索しながら、彼らは米国の歴史や自分たちの文化遺産、我々が共有している自然界について知識を深めます。プログラムの一部として「保護」活動もあります。毎年50万人近くのジュニア・レンジャーが、将来も訪れる公園があるように、公園内や家庭で自分たちにできることを探して実行します。

ジュニア・レンジャーのほとんどは7才から12才です。彼らが好みの公園や米国の歴史形成の舞台となった場所、自然の美しさや科学の驚異を経験できる場所と新しい形のかかわりを持つことが楽しいとだと感じてくれることを希望しています。そして、もちろん、私たちが本当にしようとしていることは、子どもたちとその家族の興味を引き起こし、自分たちの国立公園に関心をもち、その世話をするというプロセスを始める気にさせることです。

公園でなくても公園

公園とは、一般的な英語の定義によれば、森林や花、レクリエーションのために人が歩く曲がりくねった小道などのある自然環境のことである。しかし、国立公園局が維持管理している場所の中には、この説明とまったく一致しないところがある。国立公園制度を構成する391のユニット（管理の対象に指定された公園や記念物など）の索引に目を通してみれば、戦跡、軍事公園、史跡、記念物、記念碑、河川、海岸、自然歩道などが含まれていることが分かる。もちろん、公園もある。

米国で最初の国立公園が1872年に指定されてから、すでに130年以上になる。実際、その最初の国立公園であるヨセミテは、そうした国家にとって大切な数々の場所を監督するために国立公園局が1916年に創設された時には、すでに中年期に入っていた。その後数十年、連邦政府の保護に値する場所をめぐる考え方は変化し、進化してきた。

© AP Images/Matt Rourke

ペンシルベニア州フィラデルフィアにある独立記念館は、ジョージ・ワシントンが1775年に「大陸軍（アメリカ植民地軍）」の総司令官に任命され、1776年に独立宣言が採択された植民地時代の建物である。同記念館は、18世紀のフィラデルフィアの歴史的中核をなす20のブロックに広がり、十数か所の歴史的建造物を含む公園の目玉的存在である。

記念碑や公園、史跡として公式に知られたものであれ、20に上るその他の公園区分のひとつであれ、何世代にもわたって特別の保護と保全の対象に選ばれてきた場所は、米国の価値観と将来に残したいと考える物語について多くのことを示している。

国立公園（National Parks）内には、さまざまな資源があり、そうした自然の特徴を十分に保護するのに役立つ広い土地や水域が含まれている。米国南東部のグレートスモーキー山脈と南西部のグランドキャニオンは国立公園の中でも最も人気の高い場所である。

国定記念物（National Monuments）は、全国的に見て重要な資源を少なくともひとつ保存している。アリゾナ州にあるキャニオン・デ・シェイとカサ・グランデ遺跡はともに古代人の住居跡であり、国定記念物に指定されている。米国建国100年を記念して1876年にフランスから米国に贈られた、ニューヨーク港の自由の女神像も国定記念物である。

国立歴史公園（National Historic Parks）と国定史跡（National Historic Sites）は、米国の運命がかつて良くも悪くも展開を見せた場所であり、軍事公園や戦跡を含む場合もある。独立歴史記念公園は、英国に対して反乱を起こしたアメリカの入植者たちが、独立宣言案を起草したペンシルバニア州フィラデルフィアの建物やその他の歴史の舞台を含む。カリフォルニア州東部のマンザナール国定史跡は、第2次大戦中に日系米国人が強制収用された場所を保存し、当時の状況を説明している。南北戦争期間中の1863年の重要な戦闘の舞台であったゲティスバーグ国定軍事公園も、こうした歴史公園・史跡グループのひとつである。

国定記念碑（National Memorials）は、主として過去の出来事などを記念する場所で、地理的にはそのテーマと必

© AP Images/National Park Service

チカマウガおよびチャタヌーガ国定軍事公園。ジョージア、テネシー両州の境にあり、南北戦争の帰趨を決める1863年の重要な戦いが行われた場所を記念する。1890年、陸軍省（当時）の管轄下で、米国初の軍事公園として設立された。1933年、国立公園局に移管。国立公園制度の下にある24の戦跡・軍事公園のひとつ。

© AP Images/Bob Brodbeck

ミシガン州のピクチャード・ロックス国定湖岸近くのスペリオル湖でカヤックをこぐ人。この公園の呼び物は、64kmにわたって湖岸線に沿って展開する絶壁、砂丘、滝、および湖水。

ずしも直接的な関係があるとは限らない。ワシントンD.C.には、第2次世界大戦や、朝鮮戦争、ベトナム戦争の記念碑がある。また、元大統領に対する敬意を表明する場所もしばしば記念碑として指定される。過去の指導者をたたえる像やその人が実際に住んでいた建物などである。

このほか、国立公園局の管轄下にある400近い場所の中には、公園道路、海岸、湖岸、河川、水路、景勝地区自然歩道、レクリエーション地域などの特別指定区分がある。

ひとつの区分として独立していながら、それに属する国立公園ユニットがひとつしかないのがウルフ・トラップ芸能国立公園である。ワシントンD.C.郊外のバージニア州北部に位置するこの公園のステージでは、さまざまなジャンルのアーチストによる100近い公演が毎年行われる。2008年夏は、ワシントン・ナショナル交響楽団、ギルバート&サリバン歌劇団、カントリー歌手のトリシャ・イヤーウッド、ジャズギター奏者のジョージ・ベンソンなどの公演が予定されている。

パークレンジャーとスイスの山岳ガイド

NPS Historic Photograph Collection

アカディア国立公園で、レンジャーから海洋生物について学ぶ子どもたち（1961年）

国立公園局はここ数十年、公園および保護活動の開発、拡大、改善に取り組んでいる数多くの国に専門的な知識・技術を提供している。しかし、これは一方通行ではなく、米国側も国際的な連携の直接的な恩恵を受けている。例えば数十年前、現在では米国の公園を代表する呼び物のひとつとなっているものを育てるため、ヨーロッパ式の慣行を開始した。

連邦議会による1916年の国立公園局設立直後の数年間、初代局長のスティーブン・マザー（Steven Mather）は公園を訪れる人々のために自然歩道をつくり、公園の特徴を説明・解説することを考え、そのための助言を求めることにした。彼が注目したのはカリフォルニア州の慈善家で自然保護論者のジョージ・ゴース（George Goethe）だった。

ゴース夫妻は、この時代には少数の恵まれた人々しか行くことのできなかったヨーロッパを旅行したことがあり、その時、先生の先導で学童のグループがアルプスの山道を登り、道中で花や植物、景色の説明を受けているのを目にした。ゴースは遠足が単に教育的な目的だけでないことを知った。

スイス人は、景色について教えることを、この小さな山国でともに生きようとしている多様な民族・言語集団の間で団結とその土地に対する認識を築くのに役立つ手段とみなしていた。こうした遠足で子どもたちが自分たちの国土の美しさと驚異を共有すれば、それは家族の言語や宗教が異なっても、愛国心と誇りに対する共通の感覚をはぐくむことになるというのがスイス人の考え方だった。

ゴース夫妻は、異なる背景を持つ市民の多い米国も、自然の案内人が植えつける共通の驚きの念から恩恵を受けるかもしれないと判断した。同夫妻は、カリフォルニア州とネバダ州の境にあるシエラネバダ山脈の景観に恵まれた湖、タホ湖の個人別荘地でそうした遠足を実施するため、博物学者や植物学者を募集した。

ゴース夫妻とガイドたちは1920年までに、十分な経験を積み成功を収めた。その結果として、マザー局長からヨセミテ国立公園で同様のプログラムに着手してほしいという要請を受けた。1960年の内務省のニュースリリースはゴース夫妻とともに始まった数十年にわたる成功を祝って、「ゴース博士と夫人の独創的な取り組み、熱意、および自然案内人構想に対する惜しみない支援が、国立公園を訪れる人々を案内する国立公園局のレンジャーの制服を着た博物学者、歴史学者、考古学者に象徴される今日の解説プログラムになった」と述べている。

21世紀になっても、山岳ガイドの伝統は約5000人の国立公園局ガイドという形で生き続けており、彼らは毎年公園を訪れる2億7500万人を超える人々と公園の楽しさと驚きを伝えることに努めている。

呼びかけてくる岩

ボブ・スペルホフ

「デスバレー（死の谷）」という幻想的な名前はなんと鮮烈なイメージをかき立てることか。ここを訪れるほとんどの人々は、太陽に輝く砂丘の姿を期待する。岩の下に身を隠そうと小石の間をすばやく走るとかげはその一部である。周囲の丘には開花期を控えたサボテンが点在する。これらはいずれも期待通りだろう。訪問者のほとんどが最も驚くのは、デスバレーと呼ばれる国立公園が信じがたいほどの美しさを持っていることだ。ここでは、縞目のある色とりどりの不毛の岩が、写真に撮ってくれと呼びかけてくる。遠くの山並みや白く輝く塩原（えんげん）は探索を求めている。

私と妻は、別な砂漠公園でボランティア活動した後、デスバレーを5年前に始めて訪れた。私は地質学者として、きわめて最近の地質学的過程を示す証拠があることに感動し、圧倒された。1年後、私たちは、私にとっては理想の場所であるデスバレーでボランティア活動を始めた。やがて、有給の仕事が見つかり、この4年間この砂漠にますます夢中になっている。

私はデスバレーの地質に深い愛情を抱いており、岩の露出部分のひとつひとつに見られる込み入った結合関係を総合的に捉えようと、観察と研究を行うようになった。その結果、デスバレーとその地質は米国西部の大部分を代表するものであることが分かった。幅の広い谷間とその間にそびえる山脈は、ユタ、ネバダ、アリゾナの各州のほとんどで見られる典型的な特徴である。カリフォルニア州南部にはっきりと表れている、刻み込んだような断層線もここでは見られる。当地の地質は周辺諸州のすべての要素を備えている。

デスバレーは、米国南西部の大部分の地質学的景観を代表しているが、その一方で、その独特な美しさと複雑さが私の好奇心をそそり続ける。それがここを訪れる人々を今後末永くひきつけることを私は望んでいる。

ボブ・スペルホフは、カリフォルニア州デスバレー国立公園で解説を担当するパークレンジャーである。この記事もともと「米国公園ネットワーク」のデスバレー国立公園ガイドに掲載されたものである。より詳しい情報はOhRanger.comを参照されたい。